

会 議 録

会議名	令和7年度第2回山形市救急救命業務検証会議
開催日時	令和8年3月26日(木) 午後1時30分から午後2時30分
開催場所	山形市総合福祉センター 2階交流ホール
主催	山形市消防本部
出席者 (敬称略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成員（敬称略）7名 （五十音順）金谷透、小関裕之、後藤道子、野口比呂美、藤澤睦夫 森野一真、渡辺英一 ※長濱俊伸、廣部公子、細谷真紀子（欠席） ・ 山形市（6名） 市長、救急救命課長、通信指令課長、救急救命課総括主幹 通信指令課総括主幹、通信指令課長補佐 ※消防長（欠席）
傍聴者	・ 1名(記者)
検証事項	<ul style="list-style-type: none"> ■心肺停止傷病者の社会復帰率向上を目指した取組み（救急救命課） 「High-performance CPR」の取組状況について ■通信指令員の救急に係る研修への取組（通信指令課） 「研修体制の強化」について
座長(敬称略)	森野一真
資料	配布資料参照
作成者	山形市消防本部 通信指令課長補佐 高橋 靖幸

■市長あいさつ

市 長

皆様におかれましては、年度末で何かとご多用のところ、本日の会議にご出席いただきましてありがとうございます。

また、日頃より、山形市の救急救命体制の質の向上に多大なるお力添えをいただいていることに、重ねて感謝申し上げます。

さて昨年は、全国各地で例年のない猛暑による熱中症の増加などにより、全国的にも救急需要が高まり、山形市の救急出動件数は、過去最多となった令和6年より581件も上回る、13,328件を記録したところです。

こうした中、山形市では、村山地域の7消防本部とそれを受け入れる16の病院と連携して救急医療情報共有システムを運用し、救急の現場でタブレットを活用し、救急隊と医療機関が即時的に情報共有を行うことで、1事案あたりの病院決定時間が2.4分も短縮するなど、より早く医療機関に搬送しております。

また、市民及び観光客の皆様の安全と安心を確保するため、昨年11月には東消防署蔵王温泉出張所の移転建て替えを行い、ヘリポートや各種訓練場のほか、新たに山岳救助隊を設置するなど、さらに災害に強く、より機能的な災害活動拠点として様々な機能強化を行っております。

こうした取り組みを着実に推進し、安全安心のまちづくりを実現するためには、構成員のお力添えが不可欠でございますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日の会議では、心肺停止傷病者の社会復帰率の向上を目指した取り組みと、通信指令員の救急に係る研修の取り組みについて検証をしていただきたいと思います。

今後とも、いただいたご意見やご指摘をしっかりと生かしながら、救急救命体制の整備に万全を期してまいりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

■座長選出

森野一真 構成員

■検証事項

1 心肺停止傷病者の社会復帰率向上を目指した取組み

「High-performance CPR」の取組状況について

(救急救命課担当：後藤救急救命課長説明) ※【会議資料1-1、1-2】により説明

《構成員からの質問・意見等》

構成員

4ページの(1)、各学会等で発表される最新の知識の取込み、救急隊の教育に落とし込んでいくと記載されているが、どのような方法で取込むのかと、教育に落とし込む方法について具体的に教えていただきたい。

また、資料に六つの学会等が記載されているが、それに救急救命士が学会参加をするのか、それを持ち帰り伝達講習等をするのか、具体的なお示しいただきたい。

山形市

資料に示した学会は救急隊、消防隊が主に参加している学会です。

この学会に参加して発表や傾聴し、発表されたほかの自治体の消防本部等の取組などを参考に取り込んでいこうということです。

新しいものをいろいろ取り込んでいこうと前向きに検討しているところです。

構成員

山形市消防本部の方も発表されているということでしょうか。

山形市

学会の演題募集で救急隊や消防隊が応募し、学会で採用されれば発表します。

構成員

毎回取上げられるわけではないのですね。頑張っていらっしゃるということで、分かりましたありがとうございます。

構成員

研修については、座学・実技そして振り返りと、非常に効果を上げているということを見ましたところです。それから会議資料の1-2ということで、一般市民向けの講習も着実に増えていることが分かります。

私は、べにっこひろばの指定管理の団体として、子供の親御さんたちと関わっており、令和7年では10月末ごろに講習をしていただきました。

受講生からは、胸骨圧迫が予想以上に大変だったという声や、実際に体験できて良かったという声をたくさん頂いているところです。

参加の動機としては、子供がおもちゃをさわる機会が増え、事故も考えられるということで参加したり、興味はあったものの今まで参加できなかったが、今回のべにっこひろばのように、子

供を遊ばせる施設で講習会を開催したことで参加できたという声があり、出前講座というのは非常に大変だと思いますが、効果があると思ったところです。これについても継続していただければ、大変ありがたいと思ってます。

また、母親だけでなく夫婦での参加なども見られるようですので、是非こういった施設なども利用していただいて、啓発に努めていただければ大変ありがたいと思います。

山形市

受講していただいたということで、大変感謝申し上げます。

資料1-2に書いてある入門コースですが、この受講が1番数多く、45分という短い時間で受講できるので大変好評を頂いております。この入門コースについては、ほとんどが出前講習で、各事業所、保育園にあっては、お子さん方が昼寝をしている短い時間に受講していただくこともあり、今後こちらから出前する応急手当講習会は、増やしていきたいと考えているところがあります。今後も情報がありましたら、皆さんよろしく願いいたします。

座長

今日欠席の構成員から、この講習会について継続して受講されている方の人数等の把握はされているかという質問を頂きましたけれどもいかがですか。

山形市

入門コースについては、先ほどお話しさせていただいたとおり、45分という短い時間で、幅広く多くの方から受講していただきたいというのが我々の狙いで、このコースに関しては、名前のみの申込みで行っているところがございます。

人数は把握していないが、今後はAEDを設置している事務所や多くの方が出入りするところにも、新規の受講拡大を狙っていこうと思っております。

今後、新規の受講か複数回受講かということについては、課内で検討して受講者の声等を聞きながら、把握していくことに努めていきたいと思っております。

座長

入門コースだけでなく、ほかのコースについても反復してトレーニングすることが非常に重要ですので、それができてるかどうかということの評価は、継続して続けていった方がいいと思いますので、よろしく願いします。

構成員

活動指標が開始前と開始後で劇的に改善していて、特に1か月の社会復帰率が5.1%から13.2%と倍増してる点は市民として非常に心強く、高く評価したいと思います。

その一方で質問がありまして、令和8年度の予定の中に消防隊に対する教育も行っていくということでしたが、例えば消防隊が先に現場に到着するケースもあると思います。その場合、ハイパフォーマンスCPRの質に、今どの程度の差が出るのか疑問に思っています。

もう1点質問があり、応急手当講習会の開催状況についてです。救急入門コースなどの受講数が右肩上がりに増えている状況で、市民の救命意識が高まっていると思います。

バイスタンダーによる応急手当の実施率は、全国平均よりも非常に高いわけですが、AEDの使用率がもう少し上がってもいいのではないかと思ったところです。

また、人工呼吸による応急手当でも、実施数が以前よりも減ってると感じます。これは、例えばコロナの影響があるのか、もしくは胸骨圧迫を中心の講習に指導方針が変わったのかななどを

聞きたいです。

山形市

ハイパフォーマンスCPRの消防隊との質の差ですけれども、このハイパフォーマンスCPRの手技そのものは、令和7年度になってから開始し、データを取り始めたのが令和7年7月からになります。

その令和7年度と令和6年度のデータを比較したのが、今回の数字になっているところで、説明の中でも紹介させていただきましたが、先週救急隊の効果確認を行いまして、その救急隊の中だけでも質の差が出ています。

胸骨圧迫に取り掛かるまでの時間であったり、AEDを装着する時間であったり、各隊の色々なやり方が出てきまして、ここも統一化を図ろうと今考えているところです。

このような課題が現れたことが効果確認結果の一つの成果であったと思っています。

消防隊については、現在山形市で心肺停止を疑われる傷病者に関しては、必ず消防隊も出動しております。

PA連携ということで出動していますが、現場から直近の救急隊が出動中の場合などは、消防隊が先に現場到着する場合もございます。消防車にもAEDを搭載し、消防隊員全員が応急手当指導員の資格を持っており、心肺蘇生法をしっかり身につけていますが、今回、我々が取り組んだハイパフォーマンスCPRというのは、現場でできるだけの処置をしようというところを目的としており、各研究機関から、現場で処置することによって救命率が向上するというエビデンスが出ていているところです。

まず今年度は救急隊、そして来年度には消防隊にも同じ意識と技術を教育していこうというのが今回の狙いです。

また、AEDの使用率ですが、かなり低いことは確かですけれども、心肺停止に至る事案のほとんどが一般住宅で発生しております。AEDを使用するのは、商業施設など多くの人が出入りしている所での使用率が多いです。

心肺蘇生法については、胸骨圧迫を優先させるという指導ではなく、胸骨圧迫と人工呼吸の比率は30：2の指導を行っております。確かにコロナ禍から、人工呼吸をためらう方々は増えておりまして、それで優先順位をつけるなら、胸骨圧迫を優先するというお話はさせていただいてるところですが、心肺蘇生法については30：2の比率で応急手当講習では指導しています。

座長

補足ですが、ガイドラインでは人工呼吸については一般の方は難しいので、一般成人の方の心肺蘇生については、胸骨圧迫を優先してもよいこととなっておりますし、実際に現場で人工呼吸ができる方は少なく、気道確保という手技が入ってしまうので、一般の方にはなかなか難しいところがあります。

AEDの使用に関しては、山形市のデータでは少ない印象ですが、経年的に全県のデータを見ますと、AEDの使用割合がデータの的には増えていきますので、大分増えてきたと考えているところです。

2 通信指令員の救急に係る研修への取組

「研修体制の強化」について

(通信指令課担当：高瀬通信指令課長説明) ※【会議資料2】により説明

《構成員からの質問・意見等》

座長

構成員からの書面での質問で、現状救急に関する研修という報告を頂き、色々な事案を検討されているようですが、全国的な事案を集めて検討されているのか、あるいは署内の事例を中心に検討されているのかを伺いたい。

山形市

この研修につきましては署内の事例が主な内容です。

また、全国的な内容については、ニュース等で知りえる内容がありますので、そのような内容につきましては、課員で情報共有等をして検討を行っている。通常行っている研修については、あくまでも署内であった事案について検討を行っている状況です。

座長

録音データは非常に貴重なもので、普段聞き取れない状況で、外部に出せないデータなので、内部で研修する教材として使用することは有効であると思っています。

座長

Live 119の運用状況について、利用者の数は増えているのか横ばいなのかわかれば教えてください。

山形市

Live 119については、令和5年から運用を開始している状況ですが、令和6年度は68件の利用件数がありました。令和7年度については98件の利用件数で、傷病者の状況、位置の特定等の分からないことがあれば、通報者の方において積極的に使用させていただいているという状況であります。

座長

増えているんですね。

山形市

年々増えている状況です。

座長

構成員からの御意見で、この検証会議で色々な取組を検証したり、構成員の皆さんから意見を頂いたりしていますが、家族と共に実施する予防策や救命の取組については市民に周知することが重要ではないかというご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

山形市

救急の取組に関しては、ホームページを初めSNS等で広報をさせていただいてるところです。御自身の健康状態や予防策についても、構成員から御質問いただきましたが、これに関しても、健康医療部局等と協力しながら、どのような広報があるか、どのようなやり方があるかなどを検討しながら、広報にも力を入れていきたいと思っております。

構成員

私は透析クリニックで仕事しており、透析患者さん180人ぐらい診ていますが、透析中に突

然心肺停止になったり、自宅で急変したときのために、家族に緊急時の対応や救急車を呼ぶ時の対応を指導することがあるが、そういった取り組みを行っている医療機関、地域団体、市県、施設、地区はあるのか。

山形市

救急車を呼ぶ項目や、住所、名前を書くようなものを、山形市社会福祉協議会と協力して福祉協力カードというものを福祉協力員の方々から各家庭に配っていただいております。

そのような取り組みを行っているところです。

構成員

ご高齢だけの世帯だと緊急時に慌ててしまうことがあるので、そのようなときは隣人に助けを求めて119番の電話口に出てもらいなどやり方はいくらでも考えらるが、そのような取り組みを行っている町内会や地域があるのか。

座長

自主防災会の構成員、いかがでしょうか。

構成員

山形市内で町内会や自治会単位で防災会、防災協議会と名前は色々ですが、85%前後の防災会の団体を構成しております。

その中で、各地区で防災会という頭があって、その下に細部の町内会や自治会の組織があり、地域で要支援、要介護等々を含めて、福祉マップという地図に落とししたものが作成されています。毎年、更新しており、それらを参考にして、避難訓練や救護訓練を行っているという現状があります。山形市では組織化が県内でも高く、ある程度組織が固まっており、地区内の実情等を事前に把握するってことが大事だと思っているので、そういうことを今やっているところです。

座長

老人クラブは構成員、いかがでしょうか。

構成員

特に近年、市を通じて健康都市山形市ということで、色々な活動をしていただいて、高齢者の私どもにとっては大変ありがたいと思っておりますが、私もこの会議以外にも色々な行政の会議に出席しますが、この消防の取組や資料については大変すばらしいと思いますが、関連するような行政機関との連携についてはどのようにお考えなのでしょうか。

山形市

我々消防も市役所内の関係部局等と色々な情報交換したり、連携したりして色々なことに取り組んでいきたいと考えているところです。

■次回開催について

山形市

令和8年度第1回山形市救急救命業務検証会議は、令和8年8月19日水曜日の13時30分から行いたいと思っております。

■閉会